

2. 事業の概要と成果	
<p>(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)</p>	<p>本事業のプロジェクト目標は、ドンタップ省の小規模農家、青少年、行政や農業機関の職員、学校の教員が有機 PGS（参加型保証制度）と学校菜園の活動を通じて、環境に配慮した地域づくりの手法を学び、事業終了後も協働で実践していけるようになる。</p> <p>⇒一部達成。ドンタップ省有機 PGS の運営や学校菜園の活動を通じて、事業に参加している小規模農家、生徒、教員、行政や農業機関の職員が環境に配慮した地域づくりの手法を学びながら実践し始めている。特にトレーナー養成研修の受講生が各地域で活動の核となり、小規模農家や学生を支援できるようになってきている。今後も事業に参加している人々が協働で活動に取り組むことで、事業終了後も継続して活動が実践され、目標が達成されることが期待できる。</p> <p>本事業の今期事業達成目標は、ドンタップ省内で充足した有機 PGS の体制が整い、各対象郡において継続的に小規模農家を支援できるようになる。また、有機 PGS に参加している小規模農家がグループ活動を通じて協力して有機農産物を生産・販売し、現金収入が増える。この他、学校菜園の活動を通じて、中高生や教員のみならず、近隣地域の人々の環境保全に対する理解が深まり、有機農業技術を実践したいと希望する人が増える。</p> <p>⇒一部達成。ドンタップ省有機 PGS の体制が整い、核となる人材も出てきており、各対象郡で小規模農家を支援できるようになった。コロナウイルスの感染拡大によって活動の進捗に遅れが生じたが、一部の小規模農家はグループ活動を通じて有機野菜を生産・販売し、収入を得られるようになった。学校菜園の活動に参加した中高生や教員の環境保全に対する理解は一定の度合いで深まっており、有機農業を学びたい、実践したいという人が出てきた。</p>
<p>(2) 事業内容</p>	<p>一年次に続き、ドンタップ省農業・農村開発局および農業サービス・農村浄水センターと共に事業を実施したが、コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、活動を実施できない期間が生じ、進捗に遅れが生じた他、全ての活動を予定とおりに実施することはできなかった。しかし、新規の小規模農家グループが3つでき、うち1つのグループはドンタップ省有機 PGS の相互チェックを受け、有機認証が付与される予定である。3グループとも有機農業研修を実施後、有機野菜を生産し、ホーチミン市の小売店へ販売し収入を得ている。また、TOT 研修を実施し、有機農業を農家グループや中高生に教授できる人材を育成した。この他、新たに7つの学校で有機菜園を設置し、これまでに菜園を設置した3つの学校を対象に、環境と暮らしが繋がっていることを理解するために、ベトナムで著名なシェフグループによる伝統食作りと栄養に関する研修を実施した。実施した活動の具体的な内容と実績については次のとおりである。</p> <p>1. 有機農業技術と品質管理のための参加型保証制度（PGS）の実践</p> <p>1-1. 有機農業技術研修：新規に設立された3つの農家グループに対し、有機農業技術研修を17回ずつ実施した他、圃場の水源と土壌の検査を行った。また、グループごとの状況に応じ、雨や日差しから野菜を守るためのネット、支柱、ロープ、牛糞、稲わらを支援した。</p> <p>1-2. PGS の管理・運営するための能力向上研修：1つの農家グループに対し、相互チェックを実施した（2022年7月に有機認証が付与される予定）。また、新規に設立された農家グループに対し、PGS で必要となる相互チェックの研修を1回実施し、11人が参加した。この他、有機農業を専門に指導する指導員を養成するためのトレーナー養成研修（TOT）を1回実施し、20人が養成された。</p> <p>1-3. トレーサビリティの整備と広報：「ドンタップ省有機 PGS 農産物」について情報を正しく伝えていくためにトレーサビリティを整備した。また、3つのグループに対し、16,666枚ずつQRコードが印刷されたシールを支援した。計画ではホーチミン市で毎週、開催されている農産物市へ参加し、広く消費者へ紹介する予定であったが、コロナウイルスの感染拡大を受け、有機農業研修などに遅れが生じ、実施できなかった。</p> <p>2. 学校菜園を通じた環境教育の実践</p> <p>2-1. 学校菜園の設置および有機農業技術研修：当初の計画では3つの学校に学校菜園を設置する予定であったが、ドンタップ省教育・養成局から実施校を増やして欲しいという要請を受けたこと、有機農業に取り組む新規の小規模農家グループ数が予定より少なかったことから、予算配分の変更を行い、7つの学校を対象として学校菜園を設置し、生徒および教員に対し、有機農業技術および生態系に関する研修を実施した。平均40～45人/校が参加し、実践した。講師はトレーナー養成研修を受けた人材が担当した。また、7か所の菜園に日除け用のネット、設置用の金具とコンクリート製の支柱、鍬などの道具、菜園の案内ボードの他、初年度のみ野菜と花の種、そして堆肥の原料となる牛糞を支援した他、水源と土壌検査を行った。コロナウイルスの感染拡大の影響を受けながら、生徒たちは有機野菜を作り販</p>

売し、次期の栽培計画を立てている。

2-2. 地域住民との交流：コロナウイルスの感染拡大を受け、学校菜園の実施が遅れたため。地域住民との交流の場を設けることができなかった。しかし、活動を広く周知し、地域の人々の環境保全への理解を深めてもらうことを目的として、広報用のTシャツを学校菜園を新たに設置した7校に対し、合計344枚支援した。

2-3. 学校菜園を活用した各種研修：予定では5つの学校で実施する予定であったが、コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、3つの学校でのみ実施した。また、実施期間が限られていたため、研修内容は各学校の希望から、伝統食作りと栄養に絞り実施した。ドンタップ省コミュニティー高専（26名が参加）、グエンクアンジヨウ高校（41名が参加）、ミート中学校（40名が参加）で各1回実施し、ホーチミン市のシェフグループが講師を務めた。

2-4. 課題研究の成果発表会：コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、実施できなかった。

3. 会合

3-1. 定期会合：現状を把握し、課題の早期解決のためにPGSのインターグループ（タインビン郡、ホング郡）と月例会合を5回開催した。また、PGS調整委員会と2回会合を持ち、ロゴの作成や認証を付与するための準備を行った。

3-2. 評価会合：事業の課題と成果を確認するための評価会合をカオライン市で1回開催した。参加者はドンタップ省農業農村開発局、教育養成局、対外局、女性同盟、農業サービス・農村浄水センター、植物防疫局、各郡の農業室、農業サービスセンター、教育室、対象郡および対象村の代表、各学校の代表（生徒と教員）など115人である。農家グループの代表と生徒代表による活動報告が行われた他、プロジェクト代表して実施団体が実績、成果、課題を報告した。

(2) 達成された成果

1. 有機農業技術と品質管理のための参加型保証制度（PGS）の実践

1-1. 研修の参加者の100%が内容を理解し、研修の参加者の100%が研修で学んだことを実践する。
⇒**一部達成。**研修実施前後に実施した評価テストでは、研修の内容を理解した割合はロントウアン・グループが70%から85%へ、フートウアンA・グループが80%から90%へ、タンホイ・グループが90%から95%へと高くなった。また、モニタリングの結果、100%の農家が研修で学んだことを実践していた。

1-2. ドンタップ省農業サービス・農村浄水センター内に有機農業技術とPGSを指導するグループが設置され、15名のトレーナーが養成される。
⇒**達成。**ドンタップ省農業サービス・農村浄水センターの職員、各対象郡や村の職員、コミュニティー高専の教員、合計20名がトレーナーとして養成され、農家グループや生徒に研修を行っている。

1-3. トレーサビリティーのシステムを整備することにより、消費者が他の農産物と「ドンタップ省有機PGS農産物」を区別されるようになる。
⇒**未達成。**コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、有機農業技術研修や相互チェックなどが遅れたため、農産物市に参加することができなかった。また、トレーサビリティーの導入にも遅れが生じた。

1-4. PGSに参加している小規模農家の収入が有機農業実践前よりも30%増加する。
⇒**未達成。**コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、移動が制限された他、有機農業技術研修や相互チェック、ドンタップ省有機PGSのロゴ作成などが遅れ、早期に販売体制を整えられなかった。

2. 学校菜園を通じた環境教育の実践

2-1. 研修に参加する生徒や教員の100%が研修内容を理解し、100%が研修で学んだ技術を実践する。評価時のテストやモニタリング時の聞き取りから成果を測る。
⇒**一部達成。**評価テストの結果は次の表のとおりである。モニタリングの結果から、100%が学んだ技術を学校菜園で実践していた。

		ライヴン3 高校	ホング3 高校	タインビン1 高校	グエンヴァン テイエップ中学	タインビン 中学	キムホン 中学	フートウアンB 中学
80%以下	研修前	86%	95%	96%	100%	100%	84%	89%
	研修後	13%	0%	26%	23%	29%	70%	26%
80-90%	研修前	13%	5%	4%	0%	0%	12%	11%
	研修後	82%	74%	31%	37%	32%	20%	74%
90%以上	研修前	1%	0%	0%	0%	0%	4%	0%
	研修後	5%	26%	43%	40%	39%	10%	0%

2-2. 事業1年目の評価会合時より有機農業や生態系について関心を持ち、実践を希望する地域住民の数が10%増える。

	<p>⇒未達成。コロナウイルスの感染拡大を受け、地域の人々との交流会を実施することができなかった。</p> <p>2-3. 学生の環境保全や伝統的な地域の食文化などへの関心が高まると同時に農産物加工で起業したいと考える学生が各学校に2~3名現れるようになる。</p> <p>⇒一部達成。コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、成果発表会を開催できず、生徒の向かいたい将来について意見を集約できなかった。しかし、シェフたちと伝統食を作る研修や学校菜園での野菜栽培を通じて、生徒たちが環境保全や食の安全、地域の食文化へ関心を高めていることが感じられた。</p> <p>3. 会合</p> <p>3-1. 関係機関との定期的な会合を通じて、問題が早期に発見・解決され、スムーズに活動が進められる。議事録によって成果を測る。</p> <p>⇒達成。コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、定期会合の回数が限られたが、ロゴの作成や相互チェックの実施など迅速に協議・合意・実施することができた。</p> <p>3-2. 事業の成果と課題が明確になり、ドンタツプ省内の関係機関との連携強化が確認され、課題を解決し、成果を深めていくための体制づくりが進む。評価会合の議事録で成果を図る。</p> <p>⇒達成。ドンタツプ省農業・農村開発局や教育・養成局、女性同盟との連携強化が確認された。</p> <p>●「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標に対する成果</p> <p>目標 1. あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。</p> <p>ターゲット 1.5 2030年までに、貧困層や脆弱な状況にある人々の強靱性(レジリエンス)を構築し、気候変動に関連する極端な気象現象やその他の経済、社会、環境的ショックや災害に暴露や脆弱性を軽減する。</p> <p>⇒一部達成。本事業では、農産物の価格が低く、経済的に脆弱な立場にある小規模農家を対象として、気候変動の影響下でも継続的に一定の生産量を得ることができ、市場での付加価値がつく有機農法を紹介している他、小売店などと連携して有機農産物を販売し、小規模農家の収入向上に貢献している。</p> <p>目標 2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。</p> <p>ターゲット 2.3 2030年までに、土地、その他の生産資源や、投入財、知識、金融サービス、市場及び高付加価値化や非農業雇用の機会への確実かつ平等なアクセスの確保などを通じて、女性、先住民、家族農家、牧畜民及び漁業者をはじめとする小規模食料生産者の農業生産性及び所得を倍増させる。</p> <p>ターゲット 2.4 2030年までに生産性を向上させ、生産量を増やし、生態系を維持し、気候変動や極端な気象現象、干ばつ、洪水及びその他の災害に対する適応能力を向上させ、漸進的に土地と土壌の質を改善させるような持続可能な食料生産システムを確保し、強靱(レジリエント)な農業を実践する。</p> <p>⇒一部達成。本事業では化成肥料や農薬で疲弊している土壌や生態系を回復させ、持続的に農業生産ができる有機農法を小規模農家に紹介し、共に実践している。また、参加型保証制度(PGS)を紹介し、農家のみならず、小売店や農業専門機関や消費者グループと共に協働で透明で公平な有機農産物のバリューチェーンを構築し、小規模農家の暮らしを維持させることに取り組んでいる。</p> <p>目標 12. 持続可能な生産消費形態を確保する。</p> <p>ターゲット 12.8 2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。</p> <p>ターゲット 12.a 開発途上国に対し、より持続可能な消費・生産形態の促進のための科学的・技術的能力の強化を支援する。</p> <p>⇒一部達成。本事業では有機農業と参加型保証制度(PGS)の紹介と実践、学校菜園を通じて小規模農家や次世代を担う子供たちに持続可能な開発および自然と調和したライフスタイルについて考える場を設けている。また、有機農業に関する様々な科学的・技術的な情報を適宜提供し、能力強化を促進している。</p>
(4) 持続発展性	<p>本事業のカウンターパートであるドンタツプ省農業サービス・農村浄水センター、各対象郡の農業室や農業サービスセンターの職員と各対象村の担当職員がトレーナー養成研修や日々の活動への参加を通じて、参加型保証制度(PGS)の管理・運営を担えるようになり、小規模農家グループや各学校を積極的に支援している。また、学校菜園を造った学校では、担当の教員のみならず校長先生を含めた他の先生方も活動を推進し、父母会や地域の集まりでも積極的に活動を紹介している。そのため、事業が終了した後もドンタツプ省の人々によって本事業の活動が主体的に実践され、有機農業を実践したいという小規模農家が増える他、子供たちが将来、環境に配慮した方法を学び、農業で起業していくなど、長期的な環境に配慮した地域づくりに繋がっていくことが期待できる。</p>